

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

お気に入りの本を娘のファーストブックに

〜寝かしつけ時の授乳の語りかけに〜



まだしゃべれない赤ちゃんでも、絵本の読み聞かせは様々な刺激になり、とても良いことだと聞いたことがあります。

私自身、小さい頃に読んでもらった「しろくまちゃん」のほつとけーき」がお気に入り、ホットケーキが焼けていく様子が特に大好きでした。自分の娘にはこの本をファーストブックにしようと思われ前から用意していました。まだわからないだろうと思いつつ、お座りができる頃から子どもを膝に乗せ読み

社東町 山田 未知

聞かせていました。とてもカラフルなイラストの絵本なので、ページをめくる度に娘も絵を目で追っていました。何度も読んでいくうちに私も話を覚え、寝かしつけ時の授乳の語りかけに置き換えると、寝付いてくれるようになりました。そしてすんなり卒業することができました。また、娘も絵や話の内容がわかるようになってくると、絵本の中のホットケーキをつまんで食べてみたり、言葉を真似たり、「これはなに？」と挿絵や話の内容に興味を持ち、絵本の中に入って楽しむようになりました。

保育園に入り一歳児クラスでは先生方が絵本の読み聞かせやエプロンシアター(エプロンを使った人形劇)をやってくれました。特にエプロンシアターの「三匹のやぎのがらがらどん」がとても気に入った様子で、家でも何度も読みました。いつの間にか娘も話の内容を覚えてしまい、まだ字を読めないにもかかわらず絵本を見ながら、がらがらどんの話を一人で出来るようになっていました。絵の内容とセリフの細かいところまで覚えていてとても驚きました。

二〜三歳になると、肌で感じたり目で見たりしたことなど、自然の様子をよく言葉で表現してくれるようになりました。木陰に入ると「涼しいねえ」と言ったり、空の雲を見て「あの雲鳥になってる」など。子どもの感性には驚くばかりです。そんな豊かな表現力も、様々な絵本を通して子どもなりに何かを感じ、成長に結びついたのではないかと思います。

今では寝る前、一冊の絵本を読む事が習慣となり、毎晩好きな絵本を選んで楽しんでいます。



「三匹のやぎのがらがらどん」
絵を見ながら話す

大切な私たちの時間

矢木西 吉澤 友美



どのくらい前からだったかなあ、夜、寝る前に絵本を読み始めたのは…。

絵本を見るのが大好きだった娘が、図書館に行くとき必ず何冊も借りてくるのです。図書館へ連れて行ってくれる係は、おじいちゃん。

最初は「桃太郎」のお話から

桃太郎の話が大好きで、暗記して私たちに話してくれるくらいでした。そのかわいさと言ったらないのです。子どもの暗記力には驚かされましたし、笑わされました。「むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。おしま



でも、娘に問いかけても「わすれちゃった」なんてことが多くて…。そんな時に「絵本を読んだ」と頼まれたことがきっかけで、毎日寝る前に一、二冊読むようになりました。

寝るまでが親子の楽しい時間

絵本を読んでいると、娘も保育園であったことなどを思い出

すらしく、途中中断して、保育園での出来事を楽しく話してくれたり、悲しかったことも話してくれたりするのです。調子がよくなると、保育園でやっているダンスまで踊ってくれたりなので、なかなか絵本まで辿り着かず、絵本を読み始めると寝てしまったり、かと思えば、話に興奮して寝られず、「もつと読んで」などと言われて三冊、四冊と…。そうなるので、私の方でウトウト。隙がくついでしまえば、娘に何度か起こされたりと、毎日毎日、夜寝るまでが私たち親子にとつては楽しい時間であり、娘と向かい合う大切な時間であるのかもしれません。

娘の成長に驚かされるほどばかり

最近では、ひらがなも覚えてきて、自分で読むから「ママは聞いていて」、なんて言ってくれます。びっくりしていると、絵本を持って、ひらがなを一生懸命読んでくれるのです。内容は、一文字ずつ丁寧に読む姿に感動



寝る前の大切な時間

したりしています。親バカですがねえ。一緒に生活していて、毎日当たり前のようについて成長していることに気づきませんが、改めて振り返ってみると、最近の娘の成長に驚かされることばかりなのです。

読み聞かせにしても、娘との時間を大切にしたいと始めたこと。子どもの成長とともに、いつまで続くのか分かりませんが、女同士、いろいろな話をしながら続けていけたらいいなと思っています。